

平成 27 年度高原温泉地区における北海道大学等による募金調査の概要

調 査 名：募金に関するアンケート調査

調 査 目 的：自然環境保全に対する受益者負担としての募金をお願いする際に、募金の呼びかけ方法による募金効果の違いを調査比較するもの

調査実施主体：北海道大学農学部・国立環境研究所生物・生態系環境研究センター・京都大学農学部による合同研究グループ

募 金 枠 組 み：大雪山国立公園上川地区登山道等維持管理連絡協議会の「登山道整備会計」に対する「上川大雪自然保護募金」

調 査 期 間：平成 27 年 9 月 19 日～22 日、予備日 9 月 23 日の 5 日間

調 査 概 要：アンケート内容は募金の呼びかけを行い、行動の傾向を把握するもの。
また、日にち・時間毎に、複数の調査条件・パターンを分けて実施し、募金箱の中に既に募金された硬貨・紙幣が見える状態（見せ金）としたもの、見えないものでの募金額の違い、目標額を見せた場合と見せない場合での募金額の違い、呼びかけのみでアンケートで募金可能額を聞いたものと、実際の募金額との差などを調査した。

大雪高原温泉沼巡りコースの繁忙期であるシルバーウィーク 5 連休において仮設で設置された退園ルート・下山記録場所において、下山簿の記入を終わった登山者へ、募金の呼びかけを行い、アンケートの配布・回答を行った。

調査結果（速報）：期間中 934 名に募金を依頼し、募金総額は約 33.5 万円、一人あたりの募金額は平均 348 円（最高額 1 人、10,000 円）

見せ金の有無は、募金額へは影響を与えない。

目標額を設定した場合の平均額 397 円、目標額を設定しない場合の平均額 311 円。目標額を示した場合に 1,000 円を募金する者が増える。

道外の方は募金が高い、年齢層が高い方も募金額が高い

午前中の方が募金額が若干高い



仮設下山口



アンケート調査の様子